

## 我が国最古の神社のひとつ諏訪大社を訪ねて

長野支部 内藤 光香

新型コロナ感染症防止により、不要不急の外出が自粛される中、支部活動は3年間休止していました。昨年5月コロナも落ち着き第5類に移行され、当所善光寺には参詣に訪れる人が多くなりました。又、周辺の戸隠高原や白馬村、志賀高原などの観光地には外国からの人たちが目立ちコロナ発症以前の様相になってきました。停滞する支部活動の件、そろそろ何か計画を立てなければとの事から表題の小旅行を提案し、会員の皆様から賛同をいただき徐々に活動を実施することができました。

令和5年11月10日長野駅に8時30分集合で北信、東信在住の参加者6名を乗せ一路岡谷駅でお待ちの南信在住の小坂さんをお迎えに向かった。今回は交通費や神社を巡る行程上から費用の低減を考慮しレンタカーを使用した。ドライバーは大型自動車運転に卓越した技量をもつ小池信良さんをお願いした。岡谷駅で小坂さんと合流し全員集合の7名である。車内では久しぶりの再会で喜びの会話があちらこちらで聞かえた。最初に向かう諏訪大社とは諏訪湖の南に本宮と前宮の二宮、諏訪湖の北に下社として春宮と秋宮の二宮とに分かれ、この二宮を合わせて諏訪大社と総称いたします。諏訪大明神・お諏訪さまと全国に万余りの御分社が祀られ、全国津々浦々の人から親しまれ崇敬されています。社殿は国の重要文化財です。又、七年に一度、申年と寅年に行われる天下の大祭諏訪大社御柱祭(おんばしらさ)は、平安時代から諏訪市民20万人総出で行われます。直径約1m重さ12tにもなる巨木を八ヶ岳の麓から切り出し、里を曳き、山、川を越え最後は二社四宮の社殿の四隅に建てられます。古式にのっとりすべて人力で行われます。4月～5月に行われますがそのまつりの期間中は約200万人の観光客が諏訪を訪れます(今回の御柱祭は2028年申年の4月～5月の2か月間行われる)。

私たち一同は先に上社本宮に向かった。あいにく雨の降る中広い境内を進み本殿に参拝する。体の健康のこと家族の幸せ、将来のことなどお願いし次の目的地高島城に向かった。高島城は秀吉の家臣、「日野根織部正高吉」によって築城された。築城当時は諏訪湖の水が城際まで迫り堀の役割を果たしていた。別名「諏訪の浮城」と呼ばれていた日野根氏が移封の後、諏訪氏が明治まで城主をつとめ、廃藩置県により破却され昭和45年に復元された。そぼふる雨の中天守を見た後、城跡公園を散策、見事な庭園の中に樹齢140年を超えるフジは天然記念物に指定されている。

高島城を後にするときには昼時となり諏訪湖名物のうなぎを食すために予約をしておいた「うなぎの老舗古畑」に向かった。冷えた体を温かいお酒で乾杯し、料理がくるまでさらに旧交を温めながら、あの時のこと、あの人のことなどで話に花が咲いた。そこにいよいよ、うなぎが運ばれてきた。おいしく焼かれたうなぎの下にごはんがありその下に又うなぎが出てきて大感激、諏訪湖のうなぎのおいしさに大満足し、店を後にした。

次の目的地下社と春宮と秋宮に向かう。下社の春宮と秋宮に到着しても依然として雨は降りやまず、だが厳肅な気持ちを保ち参拝した。荘厳なたたずまいの社殿とその四隅に建てられた巨木は御柱(おんばしら)と云いご神体として崇められています。



諏訪入社下社  
左から 内藤、小宮山、工藤、池田、  
小坂、小池、高橋

最後の目的は先に記した様にハヶ岳から切り出したこの巨木を延々と里曳きをし、最後の難関、急峻な坂をこの巨木を滑り落とすことでこの祭りの代表的な場面である「木落坂」を見に行った。テレビ新聞等でこの時は必ず報道される豪快かつ勇壮な儀式です。難関突破の苦勞や危険さを思い知らされました。

これですべての行程は終了し車中では次の再開を楽しみに交互に言葉を交え帰途につきました。

参加者（7名） 小坂洋一、工藤紀千蔵、池田國男、小宮山和俊、  
高橋武子、小池信良、内藤光春（敬称略）



うなぎの老舗 古畑

左手前から 小池、小坂、小宮山、池田、右手前から 内藤、工藤、高橋